

2020年度 3Q決算

投資家様向け説明資料



2021年1月27日
オムロン株式会社

発表のポイント

■ 2020年度 3Q累計実績

- ・ 3Q期間（10～12月）は増収増益。3Q累計でも増益を達成。
- ・ 売上総利益率は引き続き向上。3Q累計で過去最高を更新。
- ・ 注力事業である制御機器事業、ヘルスケア事業が、業績を牽引。

■ 2020年度 通期見通し

- ・ 通期見通しを増益見通しに上方修正。期末配当予想42円を据え置く。
- ・ グローバルで堅調な3Qの事業環境が継続する見通し。
- ・ 引き続き制御機器事業、ヘルスケア事業が、業績を牽引。

■ ヘルスケア事業と制御機器事業の成長戦略

- ・ ヘルスケア事業は、拡大する血圧計市場において、他社が追従できない強みを活かしてさらなる成長を実現。
- ・ 制御機器事業は、ロボット統合コントローラを中心としてi-Automation!を進化。

目次

1. 2020年度 3Q累計実績	P. 3
2. 2020年度 通期見通し	P. 10
3. ヘルスケア事業の成長戦略	P. 17
4. 制御機器事業の成長戦略	P. 25
- 参考資料 -	P. 37



2020年度 3Q累計実績

3Q実績 (10-12月) セグメント別 売上高

3Q期間は社会システム事業以外は増収。3Q期間に変化あり。

	2019年度 3Q実績	2020年度 3Q実績	(億円) 前年同期比
制御機器事業 (IAB)	875	880	+0.5%
電子部品事業 (EMC)	214	230	+7.5%
社会システム事業 (SSB)	272	212	△22.1%
ヘルスケア事業 (HCB)	307	350	+13.9%
本社他 (消去調整含む)	12	11	△8.6%
合計	1,681	1,683	+0.1%

*本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したことで、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

3Q累計実績

減収幅が縮小し、増益を達成。売上総利益率は過去最高を更新。

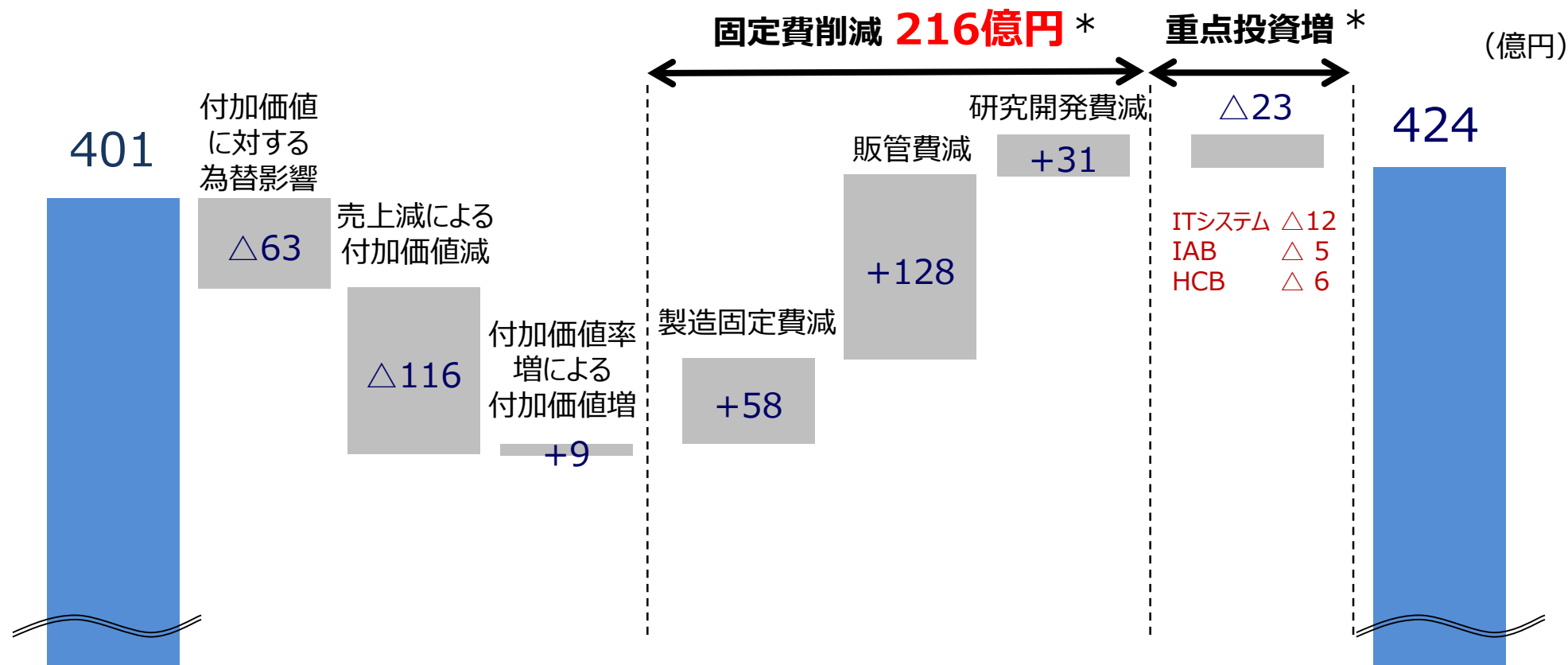
(億円)

	2019年度 3Q累計実績	2020年度 3Q累計実績	前年同期比
売上高	4,983	4,696	△5.8%
売上総利益 (売上総利益率)	2,252 (45.2%)	2,139 (45.6%)	△5.0% (+0.4P)
営業利益 (営業利益率)	401 (8.0%)	424 (9.0%)	+5.8% (+1.0P)
当期純利益	326 [*]	339	+4.1%
米ドル 平均レート (円)	109.1	106.2	△2.9
ユーロ 平均レート (円)	121.3	121.8	+0.5
人民元 平均レート (円)	15.7	15.3	△0.4

*2019年度の当期純利益は非継続事業四半期純利益を除く。なお、非継続事業四半期純利益を含むと710億円。

営業利益増減（前年同期差）

売上の回復、売上総利益率向上、固定費マネジメントによって増益を達成。
重点投資を実行しながら、期初計画200億円の固定費削減を前倒して完遂。



*為替の円高影響含む

2020年度
3Q累計実績

セグメント別 売上高

制御機器事業はグローバルでの需要回復を的確に捉え、減収幅を縮小。
ヘルスケア事業は引き続き力強く成長し、全エリアで増収を達成。 (億円)

	2019年度 3Q累計実績	2020年度 3Q累計実績	前年同期比
制御機器事業 (IAB)	2,654	2,529	△4.7%
電子部品事業 (EMC)	673	618	△8.1%
社会システム事業 (SSB)	737	586	△20.4%
ヘルスケア事業 (HCB)	853	925	+8.4%
本社他 (消去調整含む)	66	37	△43.4%
合計	4,983	4,696	△5.8%

*本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したことで、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

制御機器事業（IAB）3Q期間エリア別 売上高成長率

3Q期間(10-12月)において、中華圏は大幅成長。
グローバルの需要が回復し、他エリアでも減収幅が縮小。

2020年度 3Q期間(10-12月) 制御機器事業 エリア別 売上高成長率 (前年同期比、現地通貨ベース)

日本	米州	欧州	中華圏	東南アジア他	
				韓国以外	韓国のみ
△12%	△7%	△1%	+37%	±0%	△2%

2Q累計 (△12%)

(△12%)

(△15%)

(+19%)

(△15%)

(+17%)

セグメント別 営業利益

制御機器事業、電子部品事業、ヘルスケア事業は増益を達成。
特にヘルスケア事業は大幅な売上増加によって高い営業利益率を実現。

(億円、%：営業利益率)

	2019年度 3Q累計実績	2020年度 3Q累計実績	前年同期差
制御機器事業 (IAB)	407 (15.3%)	419 (16.6%)	+12 (+1.2P)
電子部品事業 (EMC)	9 (1.4%)	15 (2.5%)	+6 (+1.1P)
社会システム事業 (SSB)	43 (5.9%)	△ 6 (-)	△ 50 (-)
ヘルスケア事業 (HCB)	112 (13.2%)	169 (18.3%)	+57 (+5.1P)
本社他 (消去調整含む)	△ 170	△ 173	△ 2
合計	401 (8.0%)	424 (9.0%)	+23 (+1.0P)

*本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したこと、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。



2020年度 通期見通し

4Q見通し (1-3月) 事業セグメント別 事業環境認識 (2Q見通しからの変化)

制御機器事業を中心に、グローバルで緩やかな回復を見込む。**制御機器事業
(IAB)**

自動車： EV/ADASは好調継続。ガソリン車向けはMRO*需要を中心に緩やかな回復を見込む。
 デジタル： 中国で半導体、スマホの需要が増加、好調を見込む。
 食品・日用品： コロナ関連需要の継続により、底堅い推移を見込む。
 社会インフラ： 中国では5Gや太陽光を中心に好調。全体としては横ばいを見込む。

**電子部品事業
(EMC)**

民生： まだら模様はあるが、全体的に緩やかな回復を見込む。特に中国市場が回復基調。
 車載： 米州、中国市場を中心に回復基調を見込む。

**社会システム事業
(SSB)**

鉄道： 投資抑制の動きが継続しており、需要低調を見込む。
 交通： 堅調な更新需要の継続を見込む。
 エネルギー： コロナ影響で回復の遅延を見込む。

**ヘルスケア事業
(HCB)**

血圧計： オンライン販売を中心にグローバルで好調継続を見込む。
 その他： 体温計、体重体組成計などが好調継続を見込む。

*MRO; Maintenance Repair Order

通期見通し

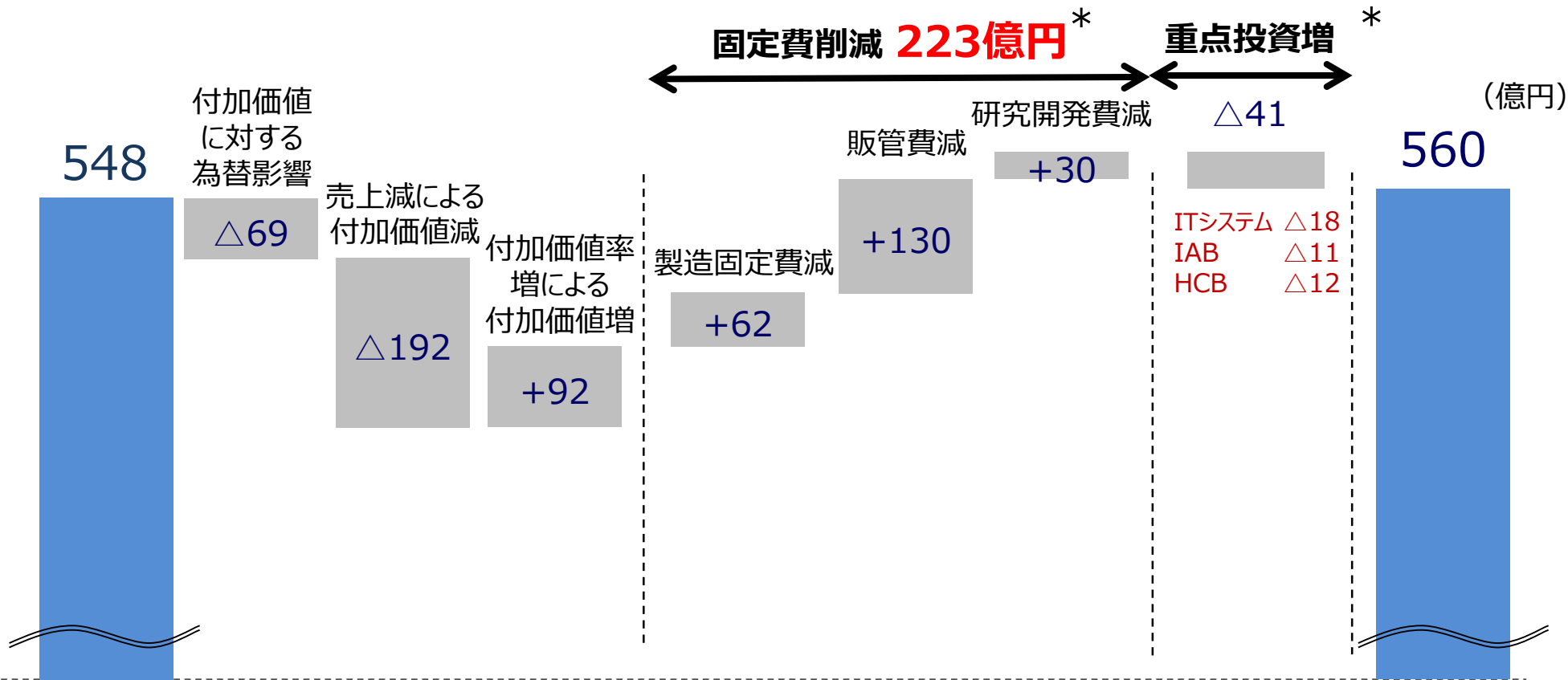
通期見通しを上方修正。減益から一転して、営業利益、当期純利益ともに増益を見込む。
 コロナ禍においても、過去最高の売上総利益率達成を見込む。

	2020年度 前回見通し	2020年度 今回見通し	前回見通し比・差	2019年度 実績	前年度比・差
売上高	6,200	6,450	+4.0%	6,780	△4.9%
売上総利益 (売上総利益率)	2,795 (45.1%)	2,930 (45.4%)	+4.8% (+0.3P)	3,037 (44.8%)	△3.5% (+0.6P)
営業利益 (営業利益率)	400 (6.5%)	560 (8.7%)	+40.0% (+2.2P)	548 (8.1%)	+2.3% (+0.6P)
当期純利益	240	400	+66.7%	392*	+2.1%
米ドル 平均レート (円)	105.9	105.9	△0.0	109.1	△3.2
ユーロ 平均レート (円)	122.5	122.4	△0.1	121.2	+1.2
人民元 平均レート (円)	15.2	15.3	+0.1	15.7	△0.4

*2019年度の当期純利益は非継続事業当期純利益を除く。なお、非継続事業当期純利益を含むと749億円。

営業利益増減（前年度差）

売上の回復、売上総利益率の向上、固定費削減の実行により、増益を見込む。
一方で来期を見据えた重点投資を実行し、成長力を強化する。



*為替の円高影響含む

2020年度
今回見通し

セグメント別 売上高

制御機器事業、電子部品事業、ヘルスケア事業で上方修正。

(億円)

	2020年度 前回見通し	2020年度 今回見通し	前回見通し比	2019年度 実績	前年度比
制御機器事業 (IAB)	3,220	3,400	+5.6%	3,528	△3.6%
電子部品事業 (EMC)	810	840	+3.7%	884	△4.9%
社会システム事業 (SSB)	930	930	±0.0%	1,160	△19.8%
ヘルスケア事業 (HCB)	1,190	1,220	+2.5%	1,120	+8.9%
本社他 (消去調整含む)	50	60	+20.0%	89	△32.2%
合計	6,200	6,450	+4.0%	6,780	△4.9%

*本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したことと、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

セグメント別 営業利益

制御機器事業、ヘルスケア事業を中心に上方修正。

(億円、%：営業利益率)

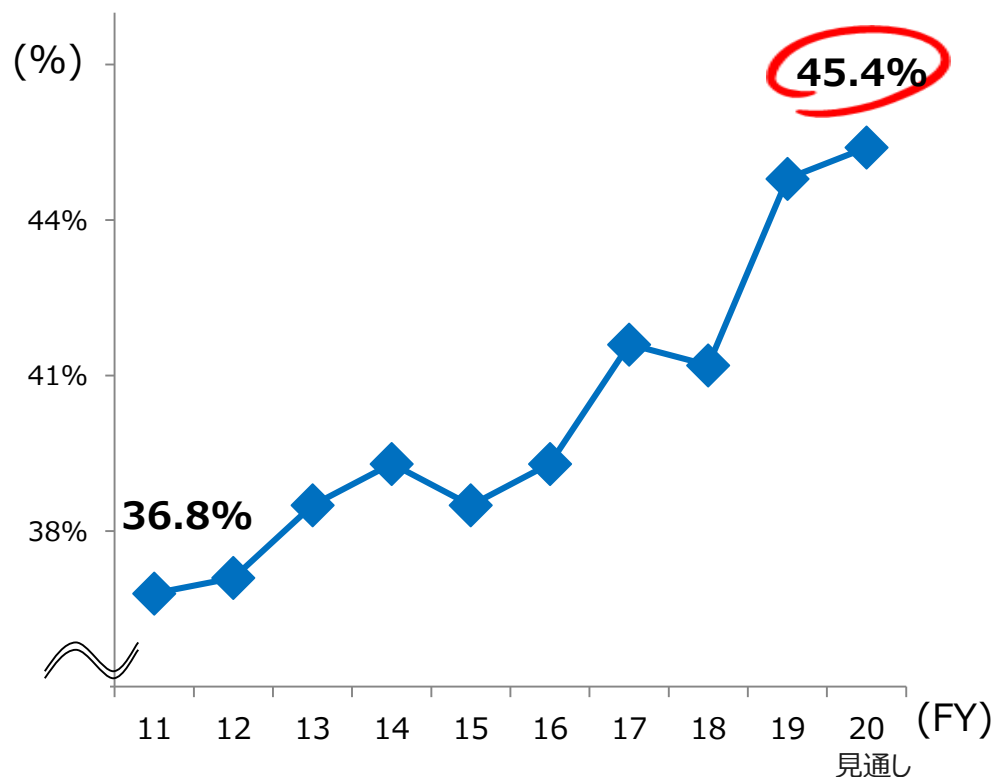
	2020年度 前回見通し	2020年度 今回見通し	前回見通し差	2019年度 実績	前年度差
制御機器事業 (IAB)	440 (13.7%)	550 (16.2%)	+110 (+2.5P)	536 (15.2%)	+14 (+1.0P)
電子部品事業 (EMC)	10 (1.2%)	25 (3.0%)	+15 (+1.7P)	9 (1.0%)	+16 (+1.9P)
社会システム事業 (SSB)	50 (5.4%)	50 (5.4%)	±0 (±0.0P)	109 (9.4%)	△59 (△4.0P)
ヘルスケア事業 (HCB)	170 (14.3%)	200 (16.4%)	+30 (+2.1P)	135 (12.1%)	+65 (+4.3P)
本社他 (消去調整含む)	△ 270	△ 265	+5	△ 241	△ 24
合計	400 (6.5%)	560 (8.7%)	+160 (+2.2P)	548 (8.1%)	+12 (+0.6P)

*本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したことで、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

CFOとしてのこだわり

コロナ禍においても適切にオペレーションを実行。
今後も、中長期的な企業価値向上のために成長サイクルを継続強化する。

売上総利益率の推移



売上成長

稼ぐ力の向上

(売上総利益率の改善)

成長サイクルの
継続強化

成長投資

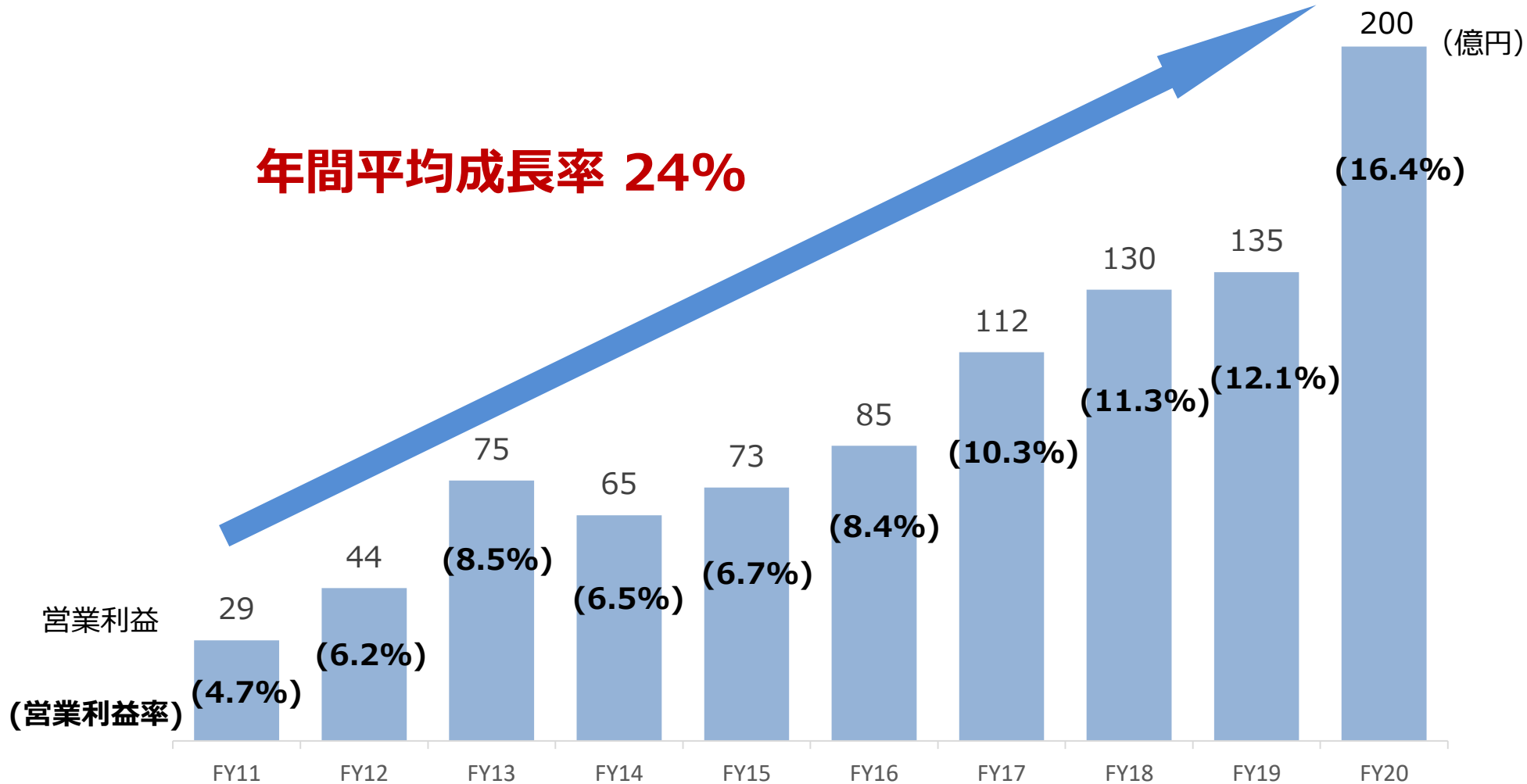


ヘルスケア事業の 成長戦略

ヘルスケア事業 営業利益の推移

過去10年、持続的利益成長を実現。

年間平均成長率 24%



*FY20は予想

ヘルスケア事業の強み（血圧計事業）

消費者向け医療機器である家庭用血圧計市場で、
グローバルシェアNo1（50%*）を獲得。

オムロンの強み

医学界からの高い信頼

- ・研究論文でのオムロン血圧計採用数No.1

グローバルチャネル基盤

- ・取扱い薬局店舗数
FY16 50万軒 → FY20 56万軒
- ・売上に占めるオンラインチャネル構成比
FY16 15% → FY20 25%

グローバルでの許認可取得体制

- ・許認可取得国数 90カ国

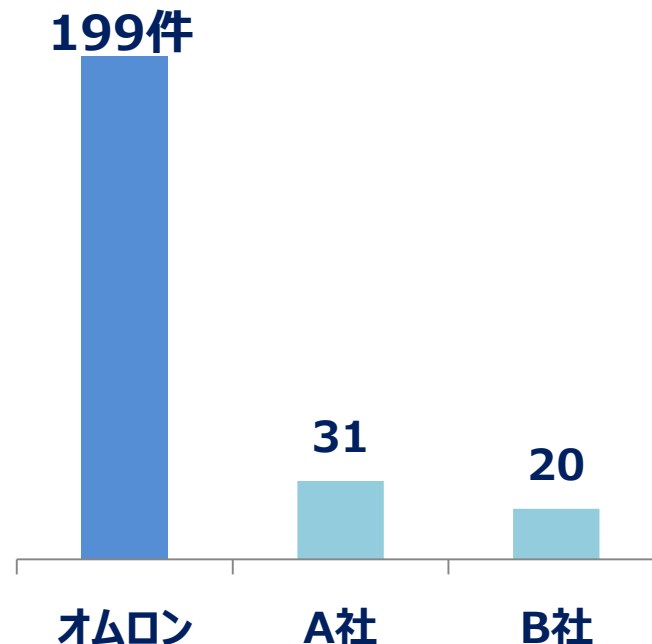
* 自社調べ

** 抽出条件：“家庭血圧”をベースに白衣高血圧、仮面高血圧を含むキーワードでPubMedから検索。

主要6誌：Circulation、Hypertension、J Hypertension、J Hum Hypertens.、Am J Hypertens. Blood Press. Monit. の研究論文のみ対象

期間：2000年～2018年11月

研究論文での オムロン血圧計の採用件数**

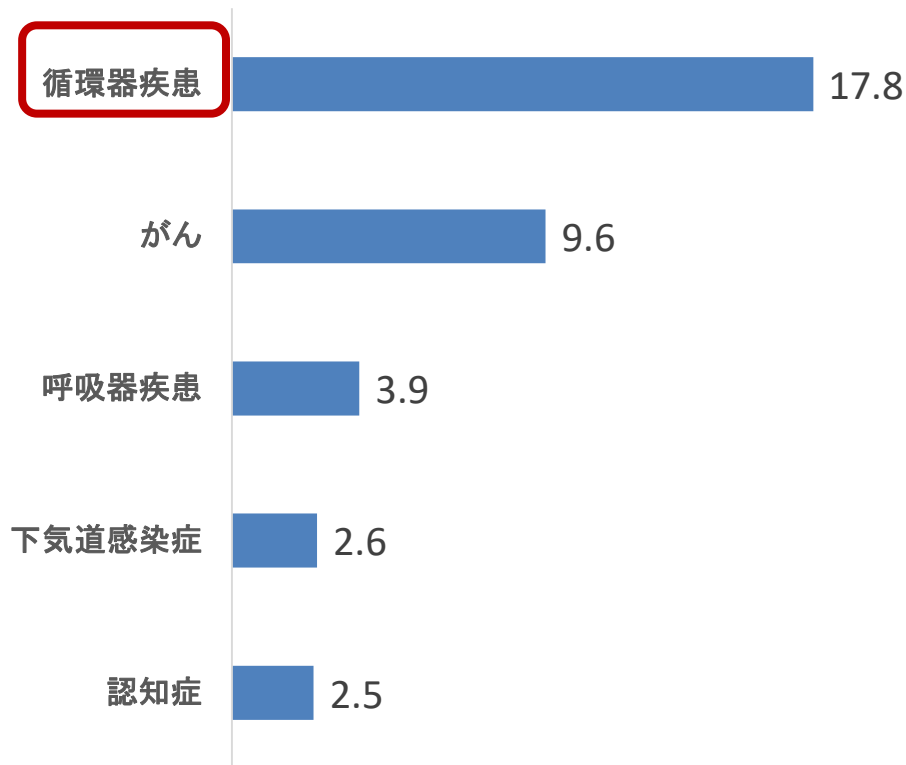


ヘルスケア事業 高血圧症の治療に対する重要性の拡大

循環器疾患は、世界の疾患別死亡原因（非感染症）の第1位。
患者数は、中国・インドを筆頭に2030年までに更に拡大する見込み。

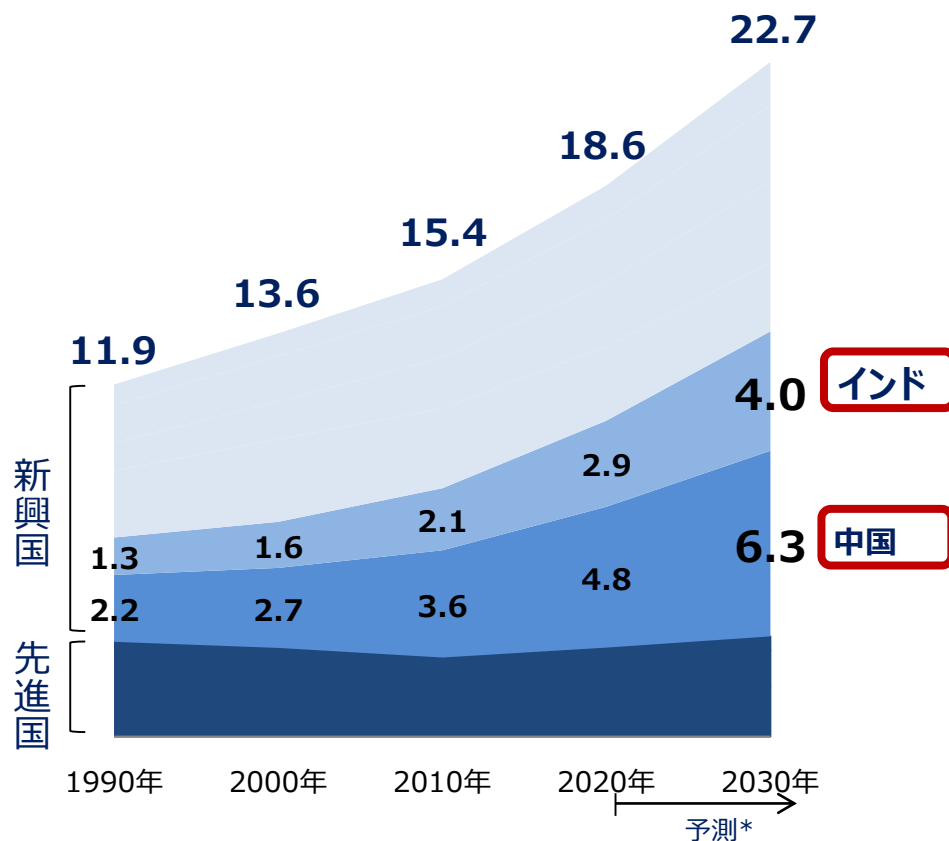
2017年 疾患別死亡者数（グローバル）

(百万人)



心血管疾患による死亡者数の推移

(百万人)



出典：Global Burden of Disease Collaborative Network 2018

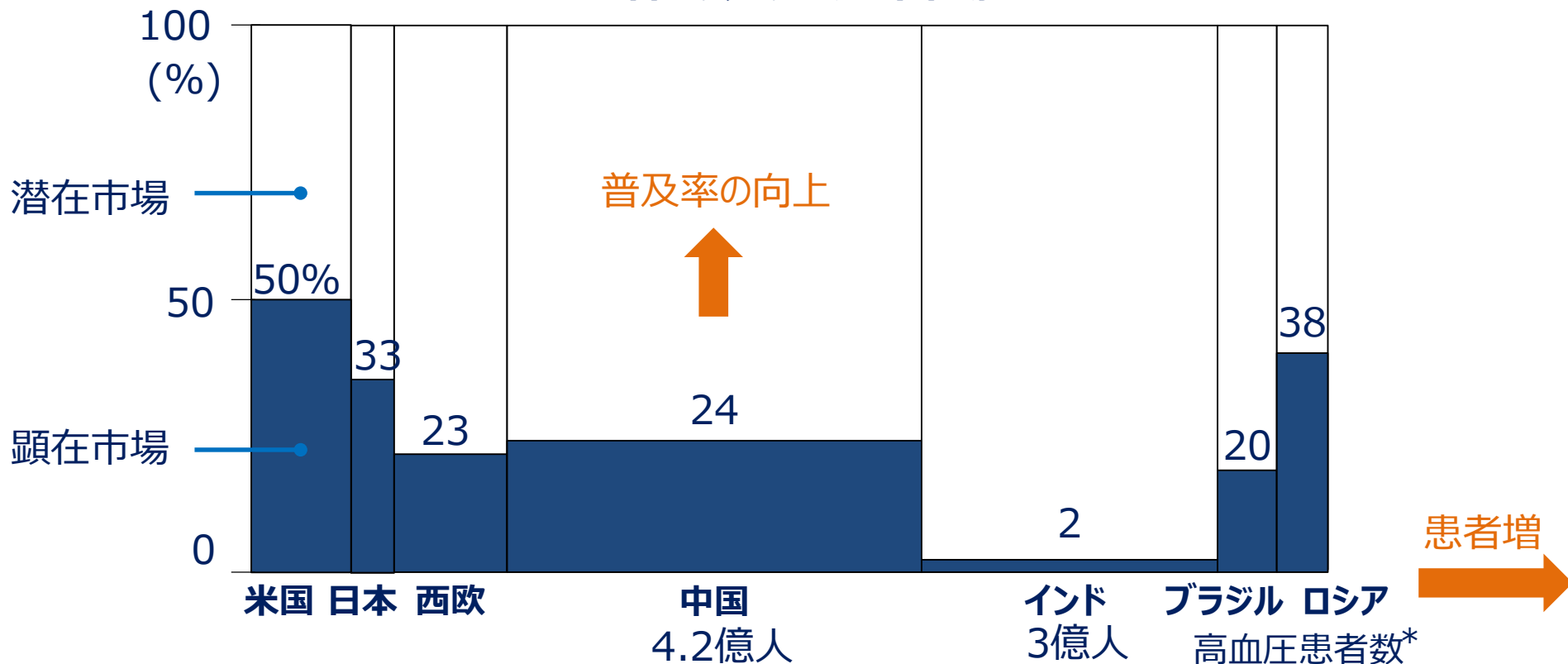
※ 予測値は2018年までのトレンドに基づき自社で算出

ヘルスケア事業 主要国における血圧計市場

新興国を中心に、グローバルで血圧計の潜在市場は大きい。
 加えて先進国では、高齢化に伴う高血圧患者数の増加に伴い、市場が拡大。

血圧計普及率**

各エリアの血圧計市場

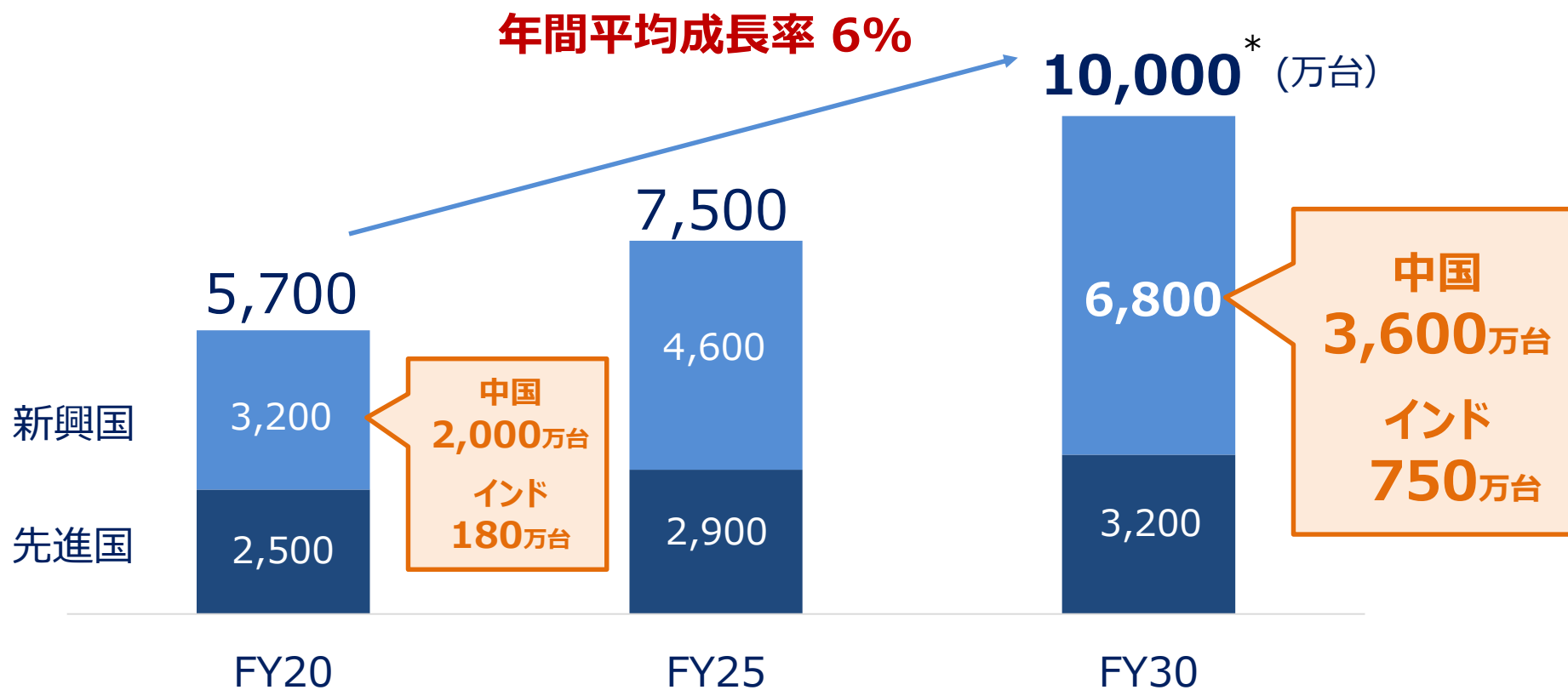


* 高血圧患者数：WHO発表の各国の成人高血圧率と各国の成人人口から算出

**血圧計普及率：推定高血圧患者数と買替サイクルを5年としたときの他社を含む血圧計の総販売台数の推定値から算出

ヘルスケア事業 血圧計市場規模 (台数ベース)

血圧計のグローバル市場規模は、2030年に1億台に達する見込み。
強みの強化、活用により、中国とインドでの売上拡大を図る。



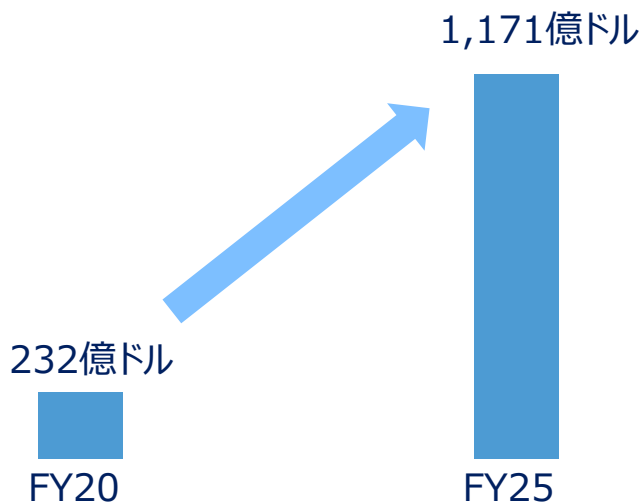
*2015年から2020年の血圧計市場全体の年間平均成長率を参考に自社で算出した予測値

ヘルスケア事業 遠隔診療サービスについて

医学界からの高い信頼を強みに、革新的デバイスの展開や各国のパートナー企業との協創により、遠隔診療サービスを展開。

遠隔診療サービス市場の予測

年間平均成長率
約40%



出典：MarketsandMarkets 「RPMの世界市場予測」
(RPM:遠隔患者モニタリング)

オムロンの遠隔診療サービス

医学界からの高い信頼

研究論文でのオムロン血圧計の
高い採用率

+

革新デバイス

ウェアラブル血圧計



心電計付き血圧計



+

各国のパートナー企業との協創

日本、米国、オランダ、シンガポール、インド

ヘルスケア 循環器事業のビジョン



オムロン ヘルスケアは『**ゼロイベント**』を目指します。

『**ゼロイベント**』とは、**脳卒中**や**心筋梗塞**など、**高血圧が原因**で起こる、**生死につながり寝たきり**などの原因となる**疾患（イベント）**を、**ゼロ**にすること。



制御機器事業の 成長戦略

私の経歴

**宮永 裕****オムロン株式会社****執行役員副社長****インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー社長**

- | | | |
|-------|----|--------------------------------|
| 1985年 | 4月 | 入社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー配属 |
| 2008年 | 3月 | グループ戦略室 経営戦略部長に就任 |
| 2010年 | 6月 | 執行役員に就任 |
| 2011年 | 3月 | グローバル戦略本部長に就任 |
| 2013年 | 4月 | 執行役員常務に就任 |
| 2014年 | 3月 | インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー社長に就任 |
| 〃 | 4月 | 執行役員専務に就任 |
| 2017年 | 4月 | 執行役員副社長に就任 |

オムロン独自の価値創造コンセプト

3つの“i”で、モノ作り現場に *innovation* を起こす

知能化

intelligent

データの最大活用による
学習・進化するモノづくりの実現

制御進化

integrated

超高速・超高精度の機械制御
による生産性向上

i-Automation!

interactive

人と機械の新しい協調

人と機械の協働による
超柔軟性の追求

IoT

i-Automation! を実現するソリューション群 = 制御アプリケーション

ソリューションビジネスを実現する 制御商品をソフトウェアで擦り合わせた170種以上の制御アプリケーション

<p>制振制御</p> 	<p>LO スライディング モード制御</p> 	<p>LO カ・速度 カスケード制御</p> 	<p>LO 包装機制御</p> 	<p>LO 巻線制御</p> 	<p>LO モデル予測 制御</p> 	<p>LO やわらか制御</p> 	<p>LO</p> 
<p>サーボプレス 制御</p> 	<p>L 温度均一制御</p> 	<p>ILR ロボット 連携制御</p> 	<p>IL 倣い制御</p> 	<p>LO テンション制御</p> 	<p>ILO ビジュアル フィードバック</p> 	<p>ILO 予測同期 制御</p> 	<p>LO</p> 
<p>フライング トリガ制御</p> 	<p>LO レーザー 加工制御</p> 	<p>IL 円筒検査</p> 	<p>IL 官能検査</p> 	<p>LO ねじ締め制御</p> 	<p>LO 回転追従制御</p> 	<p>LO 軌跡制御</p> 	<p>IL</p> 

顧客と共に制御アプリケーションを開発するオートメーションセンタ

グローバルで1000名を超えるセールスエンジニアが顧客と“共創”

8 拠点 (FY16)



37 拠点 (FY20)

欧州 10拠点

中華圏 5拠点

韓国 2拠点

日本 5拠点

米州 9拠点

アジア 6拠点

イギリス
フランス
スペイン
スウェーデン
ポーランド
ドイツ
イタリア
トルコ

北京
上海
深セン
ソウル、チョナン
劉谷
東京
九州
草津
台湾
インド
タイ
ベトナム
シンガポール
インドネシア

シカゴ
シンシナティ
ロサンゼルス
メキシコ
デトロイト
アマースト

ブラジル

制御アプリケーションの核となる“ILOR+S”

M & Aにより充実したポートフォリオによる I L O R + S。
ロボット統合コントローラを核に、I L O R + Sがより“密結合”に。

ソフトウェア

Input



欠陥抽出AI搭載
画像処理システム
2020年6月

レーザーセンサ
2020年9月

Logic



ロボット統合コントローラ
2020年7月

Output



モーション安全ACサーボシステム
2020年12月

Robot



自動搬送モバイルロボット
2020年7月



新スカラロボット
2021年1月

Safety



セーフティセンサ
2020年7月

ロボット統合コントローラによる *i*-Automation!の大進化

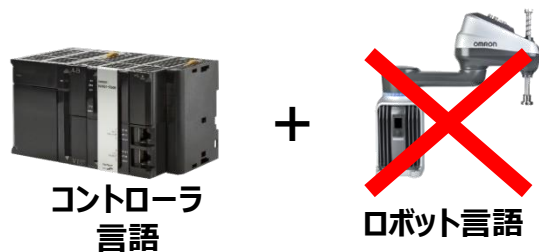
新たなゲームチェンジ

設計・立ち上げ

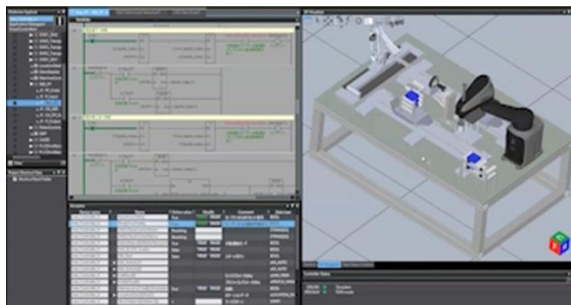
稼働

改良・メンテ

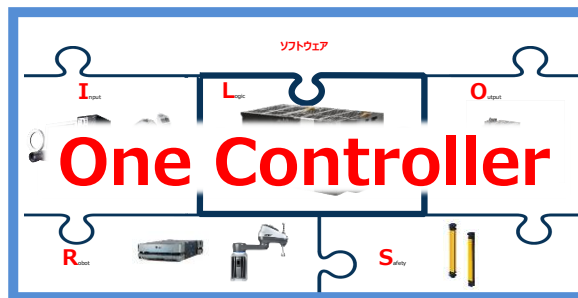
✓単一言語による
プログラミング



✓シミュレーション



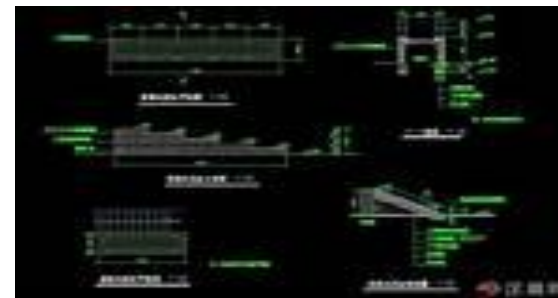
✓I L O R + S
シームレスソリューション



✓ソフトウェアがキーに



✓装置全体の見える化



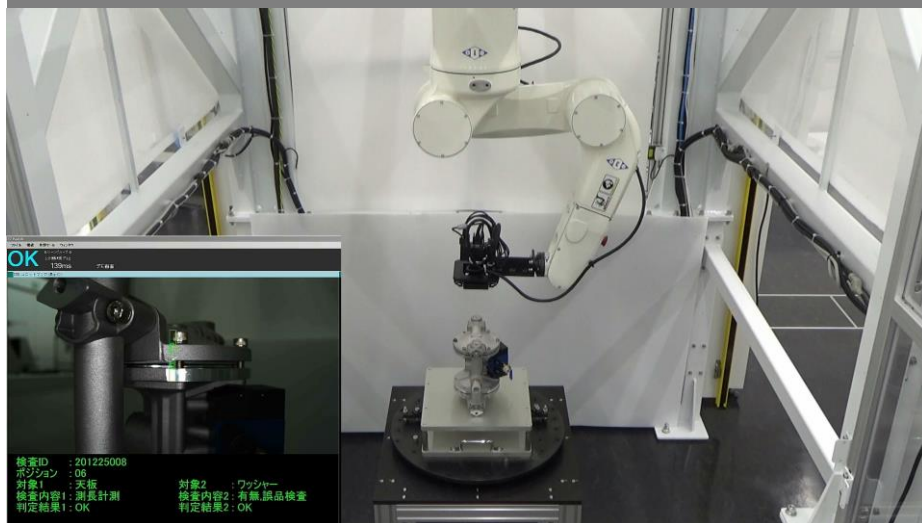
✓リモートメンテナンス



ロボット統合コントローラで進化する *i*-Automation! ①

ロボット統合コントローラならではの、“シームレスソリューション”

From : 従来の制御



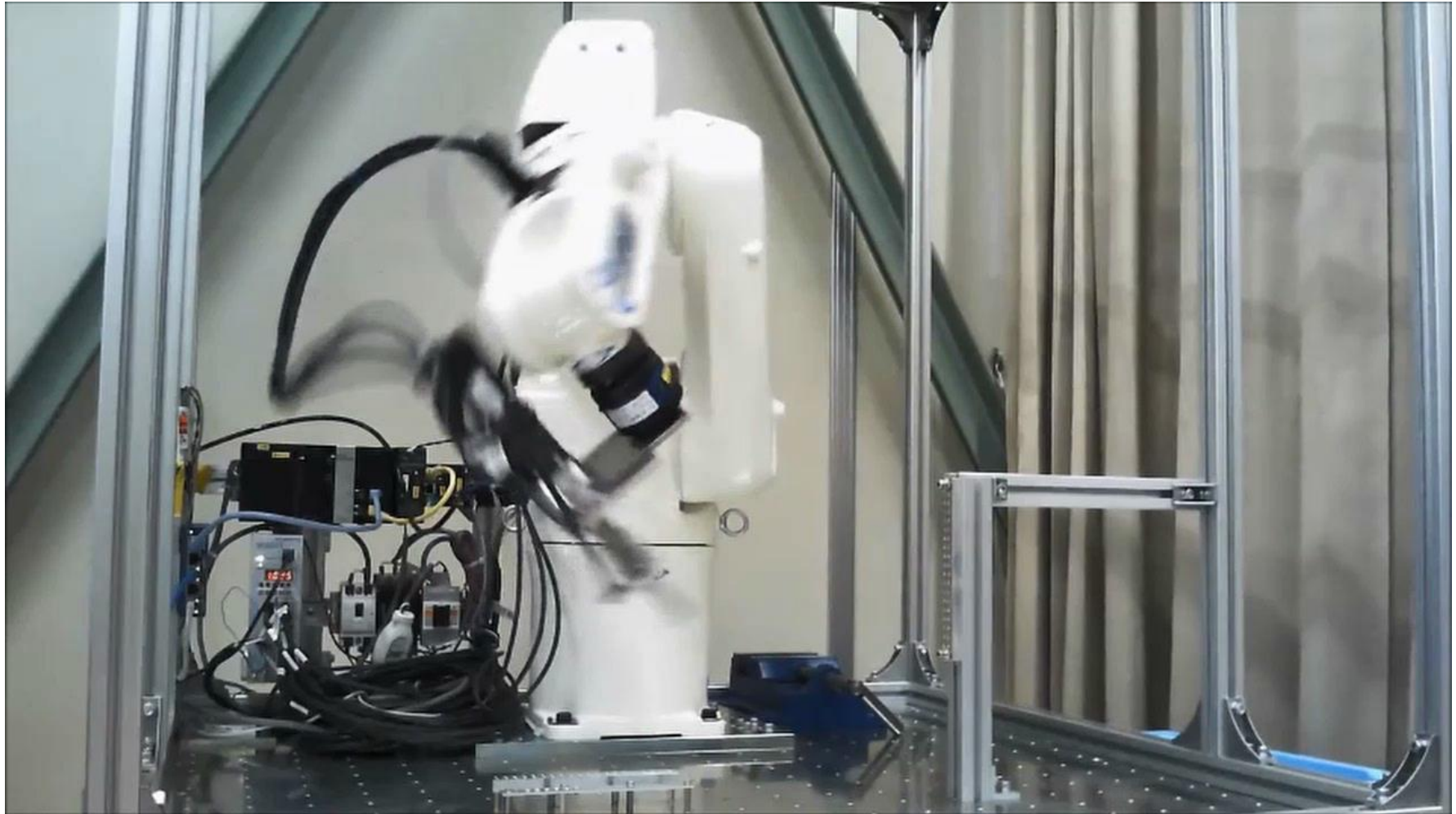
To : ロボット統合コントローラによる制御



※映像は自社での検証時

ロボット統合コントローラで進化する *i*-Automation! ②

人しかできない繊細な作業の自動化



ロボット統合コントローラで進化する *i*-Automation! ③

シミュレーションとリモートメンテナンス

The screenshot displays the Sysmac Studio interface. On the left, the Multiview Explorer shows a project structure with folders for 'Application Manager0' and 'SmartController0'. The main workspace shows a ladder logic diagram with steps 20, 21, 22, and 23. Step 20 is highlighted, showing a sequence of events: 'P_On' (normally open contact), 'EN' (coil), and 'ManualStatus[0].Linear:Done' (normally open contact) leading to 'NextStep[10]'. Step 21 shows 'NextStep[10]' (normally open contact) leading to 'st_placeTP' (coil), which then branches into two parallel paths: one through 'MOVE EN ENO' and 'UINT#9' to 'OpeNo_index[0]', and another through 'st_pickTP' and 'MOVE EN ENO' to 'OpeNo_index[0]'. Step 22 is similar to step 20, and step 23 is similar to step 21. The 3D Visualizer on the right shows a robotic arm in a simulated environment. At the bottom, the Simulator window displays a table of device variables and their current states.

Device name	Name	Online value	Modify	Comment	Data type
new_Controller_0	ResetFromSafety	True	TRUE FALSE	セーフティからのリセット信号	BOOL
new_Controller_0	ReadyFromSafety	True	TRUE FALSE	セーフティからの運転準備信号	BOOL
new_Controller_0	UN[1].StateCurrentName	Resetting			STRING[32]
new_Controller_0	UN[2].StateCurrentName	Resetting			STRING[32]
new_Controller_0	RobotStatus[0].Mode.ManualLU	True	TRUE FALSE	手動運転モード	BOOL
new_Controller_0	NAI_VS_PSC_Enable	False	TRUE FALSE		BOOL
new_Controller_0	SW_Start	False	TRUE FALSE	スタートボタン	BOOL
new_Controller_0	NAI_AxAuto[1]				sAX_AUTO
new_Controller_0	NAI_AxAuto[0]				sAX_AUTO
new_Controller_0	LinkPara[0]			リンクパラメータ(R)	sLINK_PARA
new_Controller_0	ProfilePara[0]			プロファイルパラメータ(R)	sPROFILE_PARA
new_Controller_0	MaintenanceCmd[0].Parameter	True	TRUE FALSE	総動	BOOL
new_Controller_0	LocationData[0].Pos[1]			ロケーションデータ	sLOCATION_DA
new_Controller_0	WorkPattern[0].Pattern[0]	1		ワークパターン	USINT
new_Controller_0	SBR_PP.wk_WorkPattern[0]	0			USINT
new_Controller_0	RobotControl_0.wk_RobotStatus				sROBOT_STA

オムロン独自の価値創造コンセプト

3つの“i”で、モノ作り現場に *innovation* を起こす

知能化

intelligent

データの最大活用による
学習・進化するモノづくりの実現

制御進化

integrated

超高速・超高精度の機械制御
による生産性向上

i-Automation!

interactive

人と機械の新しい協調

人と機械の協働による
超柔軟性の追求

IoT

OMRON



参考資料

セグメント区分の変更

環境事業の社会システム事業への移管、バックライト事業の収束に伴い
本社直轄(その他)セグメントを廃止する。

～2019年度

制御機器事業

(I A B)

電子部品事業

(E M C)

社会システム事業

(S S B)

ヘルスケア事業

(H C B)

本社直轄事業

(その他事業)

環境事業

バックライト

本社他 (消去調整含む)

2020年度～

制御機器事業

(I A B)

電子部品事業

(E M C)

社会システム事業

(S S B)

ヘルスケア事業

(H C B)

環境事業

収束

バックライト

連結貸借対照表

(億円)

	2020年3月末	2020年12月末	前年度末差
流動資産	4,471	4,555	+84
(現金及び現金同等物)	(1,855)	(2,114)	(+259)
(たな卸資産)	(1,043)	(1,085)	(+42)
有形固定資産	1,145	1,106	△39
投資その他の資産	1,965	2,011	+46
資産の部合計	7,581	7,672	+91
流動負債	1,513	1,341	△172
固定負債	742	691	△51
負債の部合計	2,255	2,032	△224
株主資本	5,304	5,617	+313
非支配持分	22	24	+2
純資産の部合計	5,326	5,641	+315
負債及び純資産合計	7,581	7,672	+91
株主資本比率	70.0%	73.2%	+3.2P

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2019年度 3Q累計実績	2020年度 3Q累計実績	前年同期差
営業活動によるキャッシュ・フロー (営業CF)	614	626	+12
投資活動によるキャッシュ・フロー (投資CF)	569	△177	△746
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	1,183	450	△734
財務活動によるキャッシュ・フロー (財務CF)	△107	△204	△97
期末の現金残高	2,081	2,114	+33
設備投資	244	133	△111
減価償却費	188	172	△16

3Q実績 (10-12月)

(億円)

	2019年度 3Q実績	2020年度 3Q実績	前年同期比
売上高	1,681	1,683	+0.1%
売上総利益 (売上総利益率)	764 (45.4%)	776 (46.1%)	+1.6% (+0.7P)
営業利益 (営業利益率)	144 (8.5%)	177 (10.5%)	+23.3% (+2.0P)
当期純利益	101 [*]	147	+45.2%
米ドル 平均レート (円)	108.8	104.8	△4.0
ユーロ 平均レート (円)	120.0	123.6	+3.6
人民元 平均レート (円)	15.4	15.7	+0.3

*2019年度の当期純利益は非継続事業四半期純利益を除く。なお、非継続事業四半期純利益を含むと519億円。

3Q実績 (10-12月) セグメント別 営業利益

(億円、% : 営業利益率)

	2019年度 3Q実績	2020年度 3Q実績	前年同期差
制御機器事業 (IAB)	131 (14.9%)	155 (17.6%)	+24 (+2.7P)
電子部品事業 (EMC)	2 (1.1%)	12 (5.3%)	+10 (+4.2P)
社会システム事業 (SSB)	25 (9.1%)	6 (2.6%)	△19 (△6.5P)
ヘルスケア事業 (HCB)	44 (14.2%)	63 (18.1%)	+20 (+3.9P)
本社他 (消去調整含む)	△ 58	△ 59	△ 1
合計	144 (8.5%)	177 (10.5%)	+33 (+2.0P)

*本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したこと、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

2020年度 為替前提

	2020年度 4Qの為替前提	1円変動による影響額（通期） *人民元は0.1円変動の影響額	
		売上高	営業利益
米ドル	105円	約13億円	約1億円
ユーロ	124円	約8億円	約4億円
人民元	15.2円	約7億円	約1億円

※ 新興国通貨等が、主要通貨に想定通り連動しなかった場合、感応度に影響を与えます。

主要ESGインデックスへの組み入れ (2021年1月現在)

<オムロンが選定されているESGインデックス>

- ✓ DJSI – World
- ✓ FTSE4Good Index Series
- ✓ MSCI ESG Leaders Indexes
- ✓ MSCI SRI Indexes
- ✓ STOXX Global ESG Leaders Indices
- ✓ FTSE Blossom Japan Index
- ✓ MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数
- ✓ MSCI 日本株 女性活躍指数
- ✓ S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数

4年連続選定

5年連続選定

6年連続選定

4年連続選定

5年連続選定

4年連続選定

4年連続選定

4年連続選定

3年連続選定

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA



2020 CONSTITUENT MSCI JAPAN
ESG SELECT LEADERS INDEX



FTSE Blossom
Japan

THE INCLUSION OF OMRON CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF OMRON CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

2020 CONSTITUENT MSCI JAPAN
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)



THE INCLUSION OF OMRON CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF OMRON CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

*オムロンでは、CDP気候変動・水に関する調査を含むESG評価機関による調査など、多くの外部からの調査に協力し、情報を開示しています。
2020年度評価：気候変動「A-」、水セキュリティ「A-」



社外からの評価 (2021年1月現在)

<国内におけるESG関連表彰・銘柄選定>

一般社団法人 日本取締役協会 主催

- ✓ コーポレート・ガバナンス・オブ・ザ・イヤー2018 経済産業大臣賞 **2018年度受賞**



Corporate Governance
of The Year

環境省 主催

- ✓ 平成30年度 地球温暖化防止活動大臣表彰
「対策活動実践・普及部門」を受賞

2018年度受賞



日本経済新聞社 主催

- ✓ 日経SDGs経営大賞 「SDGs戦略・経済価値賞」を受賞

2019年12月受賞

経済産業省・東京証券取引所 選定

- ✓ 企業価値向上表彰 大賞
- ✓ なでしこ銘柄
- ✓ 健康経営銘柄
- ✓ 健康経営優良法人～ホワイト500～

2014年度受賞

2017年度より3年連続選定

2018年度より2年連続選定

2016年度より4年連続選定

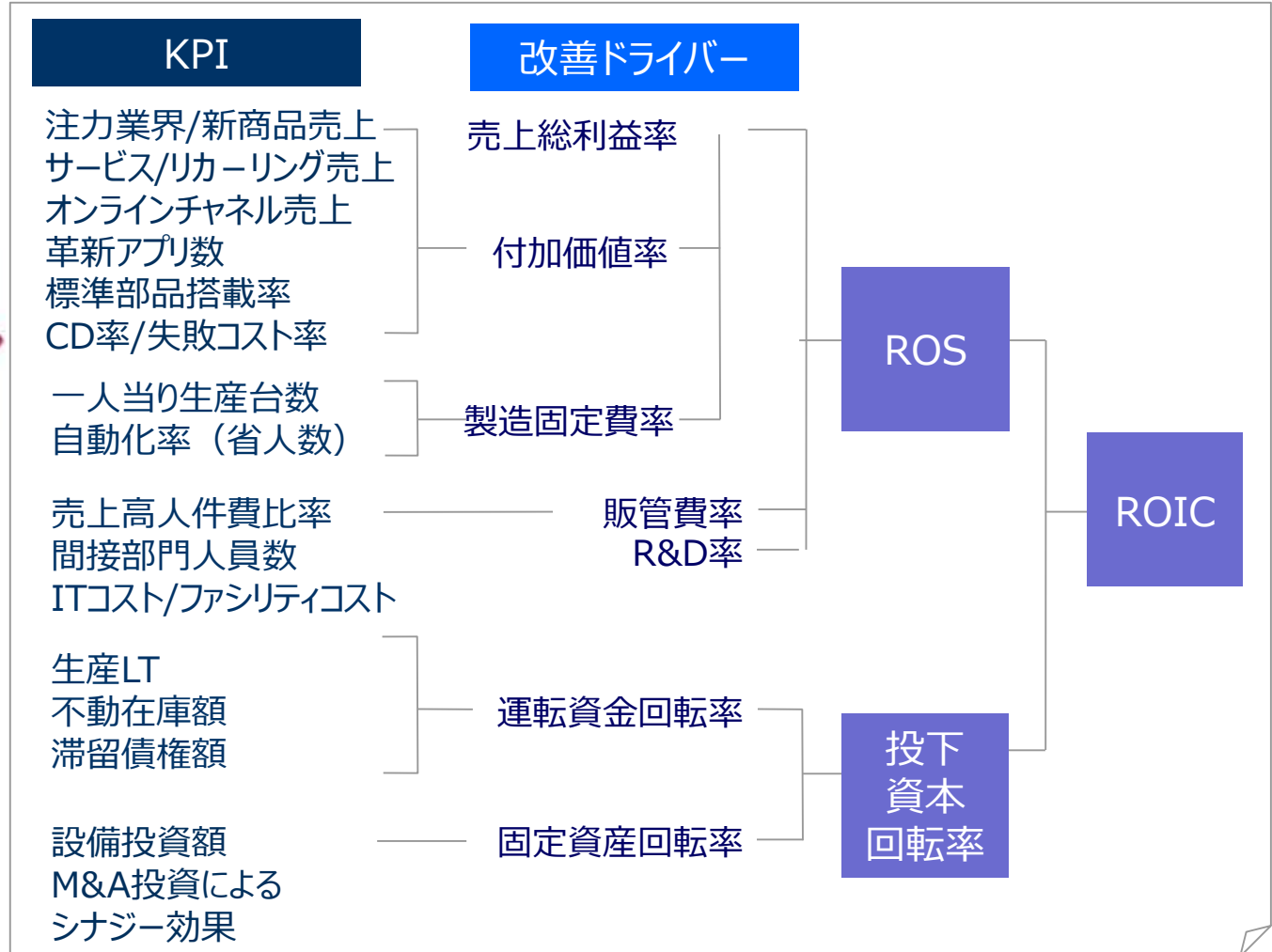


日本経済新聞社 選定

- ✓ 日経225

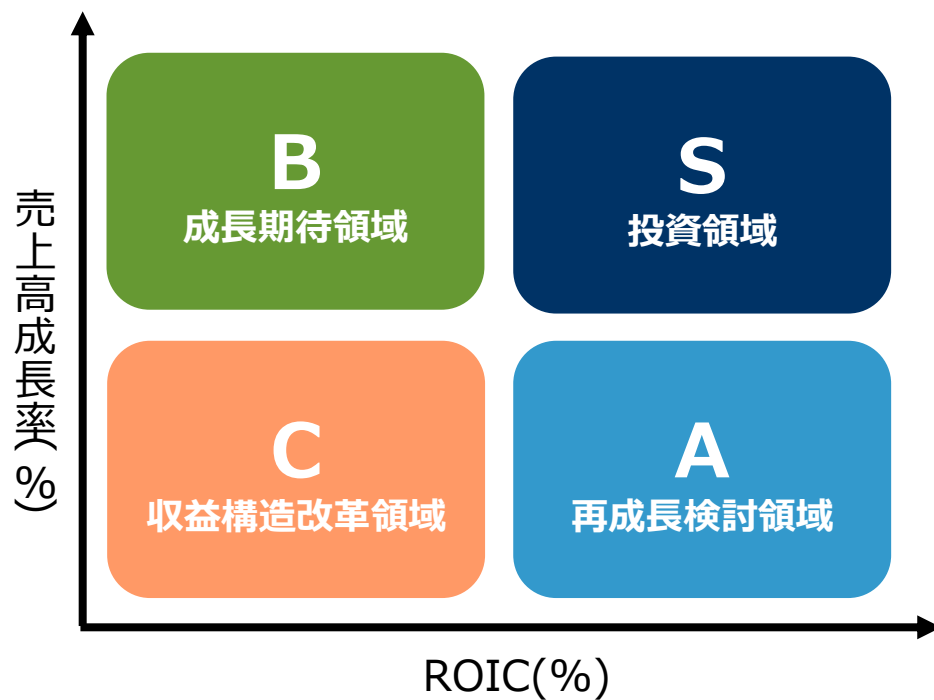
2019年3月 初選定

ROIC逆ツリー展開 (2.0)

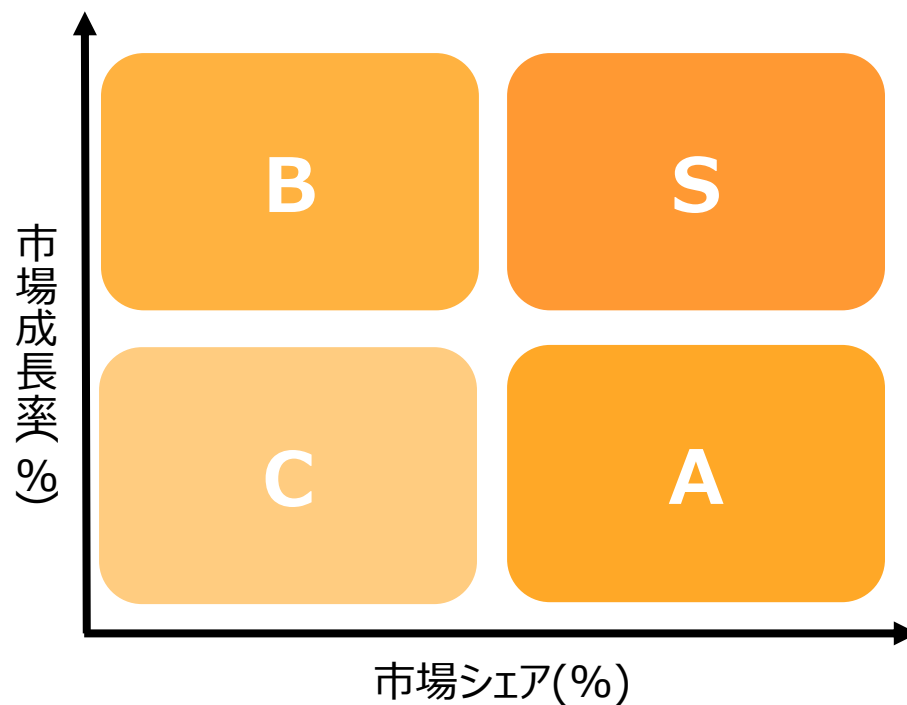


事業ポートフォリオマネジメント

経済価値評価



市場価値評価



ROIC計算式

<連結貸借対照表>

科目	年 月 末
資産の部	
流動資産	
…	
…	
有形固定資産	
…	
投資その他の資産	
…	
負債の部	
流動負債	
短期債務	
…	
…	
…	
純資産の部	
株主資本	
…	
…	
…	
純資産の部合計	
負債及び純資産合計	

当社株主に帰属する
当期純利益

ROIC =

投下資本

投下資本 = 純資産 + 有利子負債

※投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績または見通しを平均して算出。

2017～2020年度における想定資本コスト：6%

<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。
3. 当資料は「2021年3月期 第3四半期 決算短信」に準拠し作成しています。
差額、比率については百万円単位で計算し、四捨五入しています。

< I R に関するお問い合わせ >

オムロン株式会社

グローバルインベスター & ブランドコミュニケーション本部 IR部

電話 : 03-6718-3421

E-mail : omron-ir@omron.com

Webサイト : www.omron.co.jp